

(2) 土坡（堀・土塁）の保存状況

本計画では、土塁の天端と内側の土坡は土塁に区分して、堀の法面と連続する外側の土坡は堀として扱う。土地利用やこれまでの整備状況から、堀を形成する土坡は5つに区分し、土塁を形成する土坡は4つに区分する。堀に面している斜面の内、市街化や公園整備により造成されたものは対象外とする。近年発生した倒木や斜面の崩壊箇所、地盤の緩みが懸念される箇所についても合わせて P56 の平面図（図 3-14）に示す。

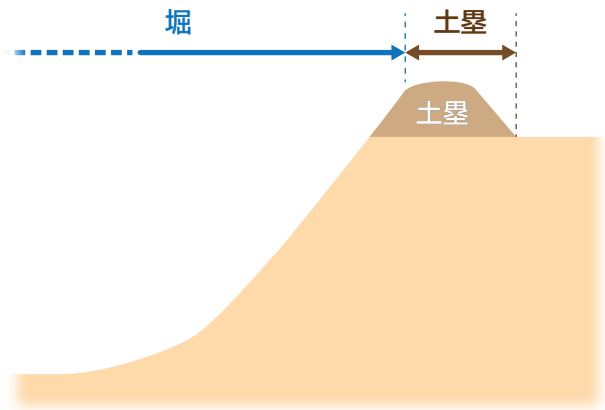


図 3-13 土坡の区分図

<堀を形成する土坡>

土坡 - 堀A. 草本類により覆われている土坡

土坡の表面が草本類により覆われ、土砂流出を防いでいる。



土坡 - 堀B. 樹木が点在する土坡

斜面が草本類と樹木で管理され、堀底へ降りるための園路が整備されている。樹木が密集していないことから、夏場でも対岸から土坡を見ることができる。



土坡 - 堀C. 桜を中心とした落葉広葉樹が樹林を形成している土坡

内堀の南側は、桜を中心とした落葉広葉樹林であることから、冬期になると対岸から土坡が見える。春には大和郡山市の代表的な景観のひとつとなっているが、樹根の伸長や倒木による土坡への影響が懸念される。その一方で、樹木が生長することで雨水が直接土坡に降らないことから、土坡の保存に寄与している面もある。



土坡 - 堀D. 桜を中心とした落葉広葉樹林を形成し、下部にある多数の擁壁により安定している土坡

内堀の北側から西側についても南側と同様に桜を中心とした落葉広葉樹林となっている。斜面の安定化を図るため、数多くの擁壁が整備されてきたため、冬期になると擁壁が目立つ。斜面の安定化に有効である反面、歴史的景観にはそぐわない。春には大和郡山市の代表的な景観のひとつとなっているが、将来的には樹根が与える影響が懸念される。



土坡 - 堀E. 密集した針広混交植樹林および落葉広葉樹林を形成している土坡

左京堀および玄武曲輪南側の土坡は、樹木が密集して生育していることから、冬期でも対岸から土坡が見えない。樹根が与える影響は前述したとおり。



＜土塁を形成する土坡＞

土坡 - 土塁A. 草本類により覆われている土坡

土坡の表面が草本類により覆われ、土砂流出を防いでいる。

土坡 - 土塁B. 桜を中心とした落葉広葉樹林を形成している土坡

本丸の西側から南側にかけての土塁上には桜が列植されている。樹根が伸長することで、土塁だけでなく石垣にも影響を与えていると考えられる。民有地でもあり、現在は見学者の積極的な誘導を控えている。

土坡 - 土塁C. 密集した針広混交植樹林および落葉広葉樹林を形成している土坡

樹木が密集して生育していることから、冬期でも土坡が見えない。樹根が与える影響は前述したとおり。



土坡 - 土塁D. 表面の流出がみられる土坡

草本類も生育していないことから、土坡に直接雨水が降り、一部で表面が流出している。



<堀を形成する土坡>

堀A	草本類により覆われている土坡
堀B	樹木が点在する土坡
堀C	桜を中心とした落葉広葉樹が樹林を形成している土坡
堀D	桜を中心とした落葉広葉樹林を形成し、下部にある多数の擁壁により安定している土坡
堀E	密集した針広混交植樹林および落葉広葉樹林を形成している土坡

<土塁を形成する土坡>

土塁A	草本類により覆われている土坡
土塁B	桜を中心とした落葉広葉樹林を形成している土坡
土塁C	密集した針広混交植樹林および落葉広葉樹林を形成している土坡
土塁D	表面の流出がみられる土坡

● 近年発生した倒木による斜面崩壊箇所

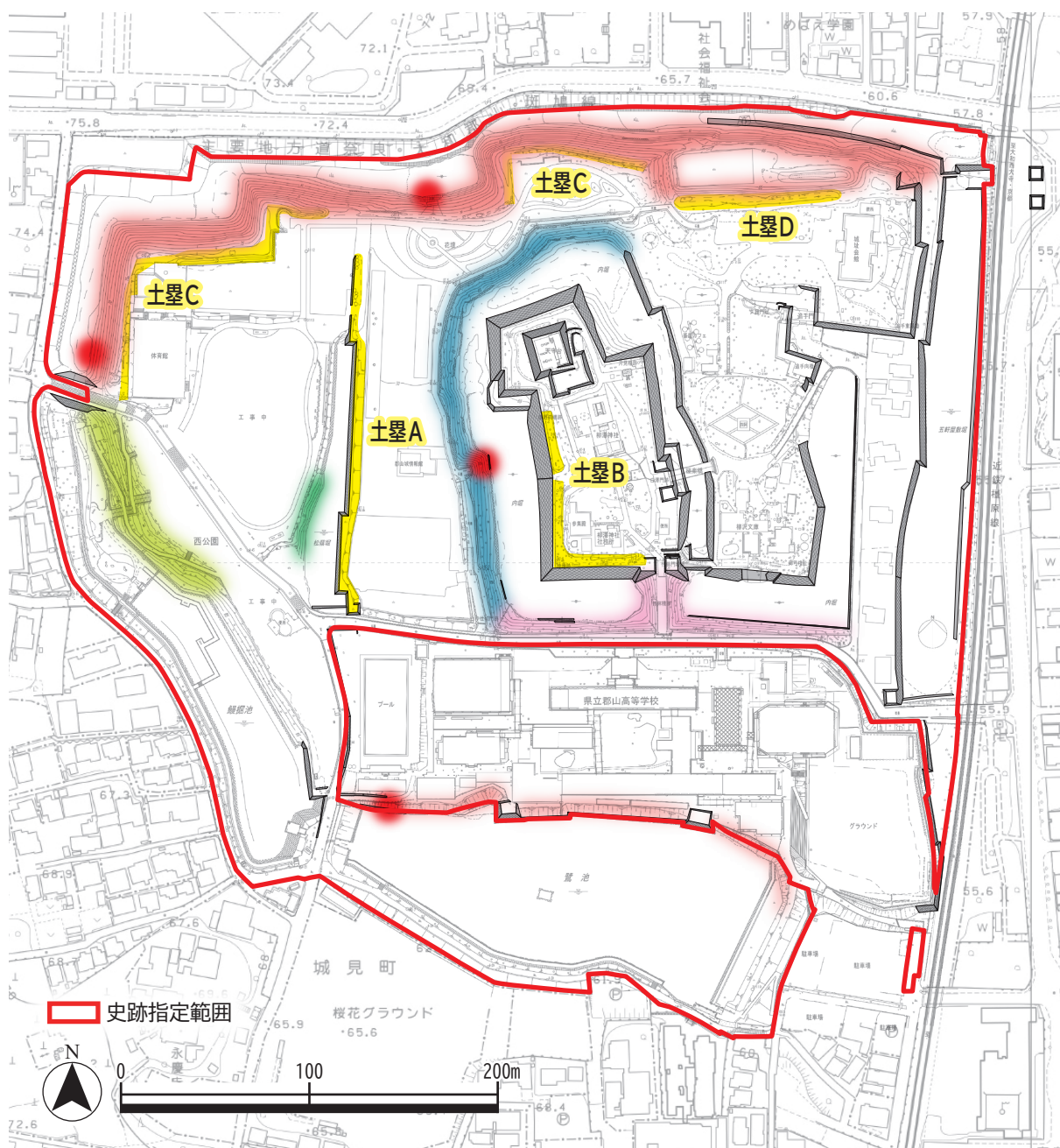


図 3-14 土坡（堀・土塁）の保存状況

(S=1/3,500)

(3) 石垣の可視性

石垣の保存状況でも述べたように、石垣面に付着している苔やつる性植物、実生木等により、石垣面がよく見えない箇所が多数存在する。ここでは石垣が見える状況によって、現状を3つに区分する。

石垣 -a. おおむねよく見える石垣：124 面（史跡指定地内は 107 面）

築石の大きさや形、積み方などの特徴を理解することができる石垣、多少苔が付着しているものの、おおむね石垣の特徴を理解することかできる範囲までを対象とする。なお、対岸の樹木が密集し、視認が困難なものも含んでいる。



石垣 -b. 一部が植物に覆われて見ることができない石垣：21 面（史跡指定地内は 20 面）

周辺に生育している樹木が大きく生長したため、一部が隠れている石垣を対象とする。



石垣 -c. 樹木に覆われて大半を見ることができない石垣：28 面（史跡指定地内は 18 面）

周辺に樹木が数多く生育し、石垣そのものが隠れている石垣を対象とする。



(4) 土坡（堀）の可視性

土坡の保存状況でも述べたように、樹木により堀の斜面が見えない部分が多い。ここでは堀が見える状況によって、大きく3つに区分する。

土坡（堀）-a. 斜面上に樹木が生育していないことから堀の斜面を認識することができる区間

松陰堀の一部が該当するが、目立たない位置にあり、来訪者が認識することはほとんどない。



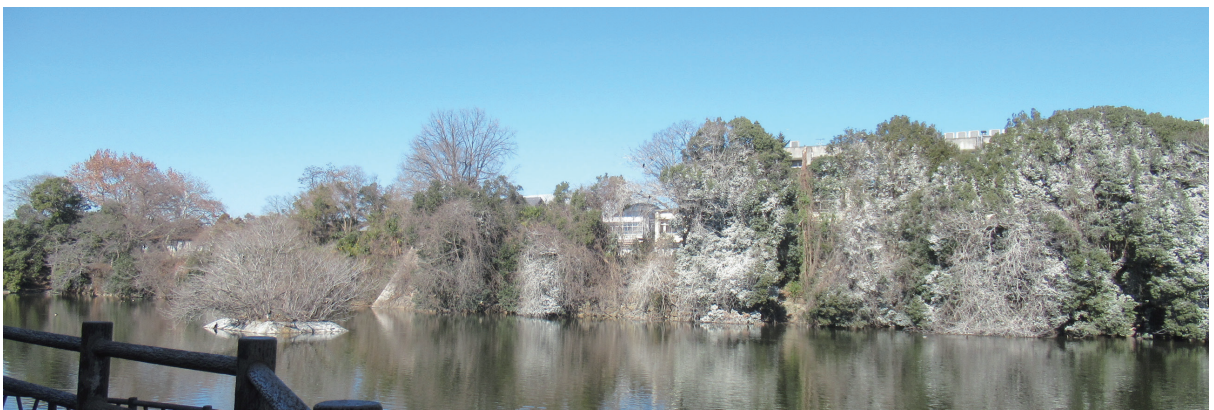
土坡（堀）-b. 樹木が生育しているものの堀の斜面を認識することができる区間

樹木が密集していないことから、堀の斜面と認識することができる。内堀部分は、桜を中心とした落葉広葉樹であることから、冬期になるとさらによく見える。



土坡（堀）-c. 樹木が密集していることから堀の斜面を認識することが難しい区間

樹木が密集していることから、冬期でも堀の斜面を視認することができない。



<石垣の可視性>

石垣-a	おおむねよく見える石垣
石垣-b	一部が植物に覆われて見ることができない石垣
石垣-c	樹木に覆われて大半を見ることができない石垣

<土坡（堀）の可視性>

土坡（堀）-a	斜面上に樹木が生育していないことから堀の斜面を認識することができる区間
土坡（堀）-b	樹木が生育しているものの堀の斜面を認識することができる区間
土坡（堀）-c	樹木が密集していることから堀の斜面を認識することが難しい区間

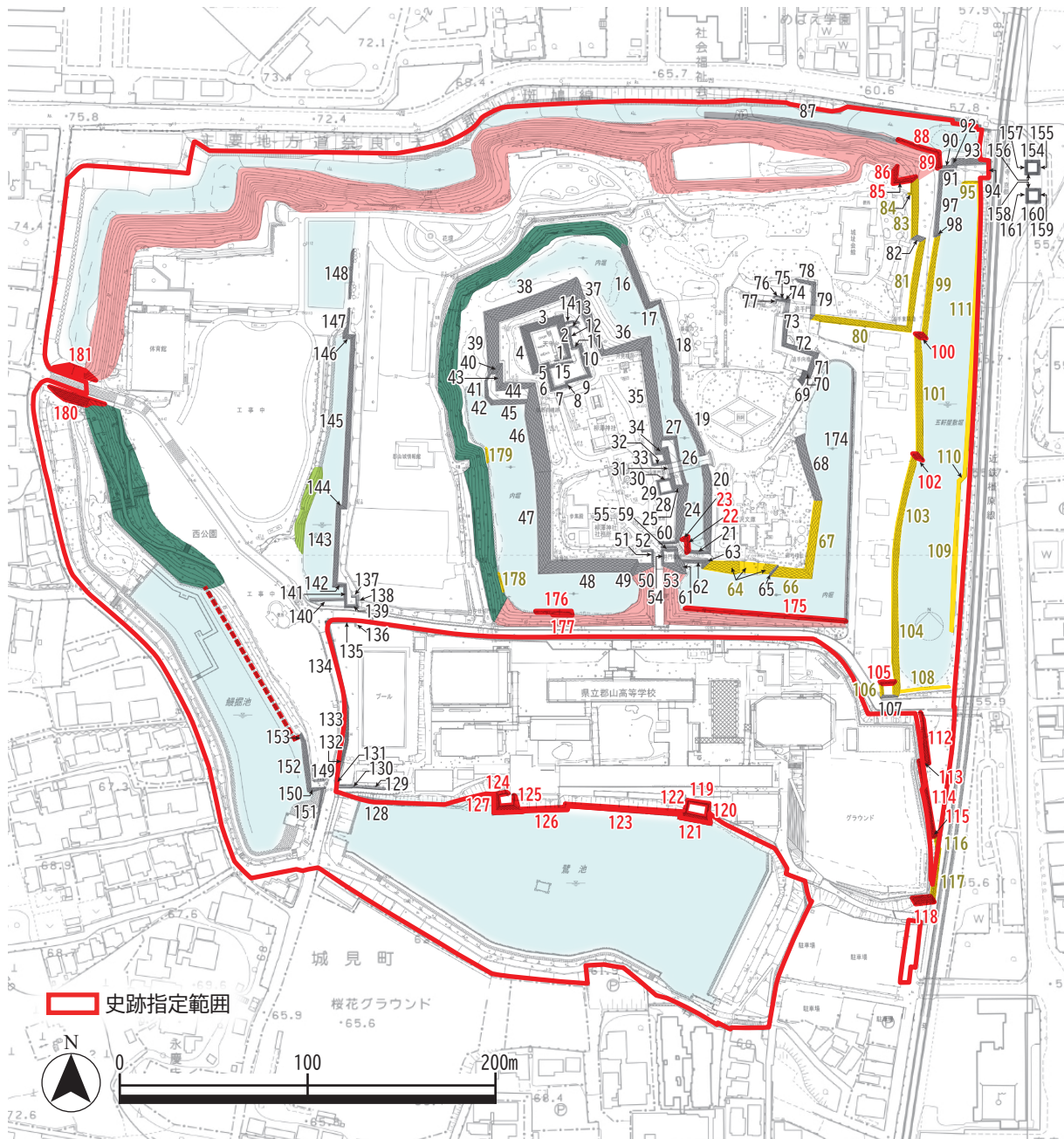


図 3-15 石垣・土坡（堀）の可視性

(S=1/3,500)